やまなし幼児教育センターだより

令和７年１０月発行

やまなし幼児教育センター
〒400−8510
甲府市武田四丁目４−37（山梨大学内）
☎055−220−8143

地域をつなぐ幼保小連携・接続研修会開催

今年度、やまなし幼児教育センターでは、より発展的な幼保小の連携・接続を目指し、４教育事務所の協力のもと、教育事務所単位で、『地域をつなぐ幼保小連携・接続研修会』を実施しました。幼児教育施設、小学校、行政の関係者等延べ 300 名が参加し、「幼保小の架け橋プログラム」について理解を深めることができました。

指導・助言は山梨大学教授　大野歩先生

峡東地区

開催日：6月5日
参加人数：57 名
実践発表：甲州市教育委員会
＜助言者より＞行政が主導し推進委員会を開催。保護者の意見を聞き、カリキュラムに反映させることで、園・学校・保護者一体となって子どもを育てることや、地域力向上につながっていることが素晴らしい。子どもたちの育ちをどのように見取り、保育・教育に生かしていくか考えていくことが大切。

峡南地区

開催日：6月11日
参加人数：39 名
実践発表：市川三郷町教育委員会
＜助言者より＞町内にある既存の資源を活用しており、従来からある組織を上手に使って子どもたちを語る機会の素地ができている。市・学校・園の体制づくりには管理職の理解が重要。0 歳～12 歳の学びをつなげられるよう、カリキュラムの作成を検討していけるとよい。

中北地区①

開催日：6月12 日
参加人数：48 名
実践発表：　高根東小と校区 4 園
＜助言者より＞連携体制が地域ぐるみで整っていて、発達の側面に応じた支援体制も工夫されている。今後は学びの接続に向け、観察のポイントや視点を共有していくとよい。

中北地区②

開催日：6月 19 日
参加人数：77 名
実践発表：　貢川小学校と校区 4 園
＜助言者より＞管理職の理解のもと、校区で協議会を開催。子どもを参観する際に「視点」を共有しているところがよい。小学校の先生方が園での育ちや学びについて、スタートカリキュラムの期間を活用し、ゆっくり見取り、学校での学びにつなげてほしい。

富士・東部地区

開催日：8月8日
参加人数：79 名
実践発表：
　山中湖村教育委員会
　富士吉田市教育委員会
　富士河口町教育委員会

＜助言者より＞
〔山中湖村〕不登校児童が0である背景には、切れ目ない接続体制が整えられていることが挙げられる。小さな取組が積み重なり、村全体でこどもを見守る体制が整えられている。
〔富士吉田市〕幼保小の話し合いのプラットフォームが形成されている。今後の課題として、認可外保育園との連携が挙げられた。県全体での対応を考えていく必要がある。
〔富士河口湖町〕行政の教員経験者の強固なバックアップ体制により、カリキュラム編成が行われ、モデル校の実践が進んでいる。モデル校の実践報告をもとに、幼稚園、保育所、小学校における情報交換会が行われている。
【共通】主体的・対話的な学びの実現に向け、5 歳児カリキュラムの見直しが必要である。また小学校での単元配列表を活用した取組も有効である。

「子どもの運動遊び」の重要性

ここ数年、外遊びの時間や安全な遊び場が不足し、幼児が体を動かす機会が減ってきています。そのため、走る・跳ぶ・投げるなどの様々な動きを体験することも少なく、体力や運動能力の低下が心配されています。幼児期から児童期まで切れ目なく、運動遊びを経験することは子どもの発達段階に応じた自発的な運動習慣の形成を図る上で、大切なことです。

そこで、今年度、やまなし幼児教育センターでは、管理職研修会において、山梨大学学長　中村和彦先生から「健やかな育みのために～子どもにとっての運動遊びの重要性～」の演題で御講演いただきました。遊びの必要条件は「3つの間」（時間・空間・仲間）、そしてその遊びを支えるのが「プレイリーダー」の存在。プレイリーダーはドイツやオーストラリア等ではよく知られた存在で、日本でも全国的に広がりつつあり、甲府市や南アルプス市でも数年前から継続して講習会が開催されていることが紹介されました。

中村先生は、「子どもが運動遊びに夢中になれる、そしてのめり込むことができるように大人が仕掛けることが重要。その先導役としてのプレイリーダーが、運動遊びをリードすることで、子どもたちの運動遊びへの興味・関心は広がり、子どもたちの健やかな育ちにつながる」とお話されました。

中村先生のこの講演を受け、県教育委員会保健体育課・義務教育課では、8 月・9 月・11 月に「プレイリーダー講習会」を開催しています。講師は昭島市立光華小学校校長でミズノプレイリーダーマスターの眞砂野裕先生。東日本大震災、原発事故発生直後から中村先生と共に 200 回以上福島県に入り、子どもたちの遊び場の確保、人との関わりを大切にしながら、子どもが夢中になれる運動遊びを実践してきた方です。

第 1 回は「鬼ごっこ・かけっこ運動遊び」、第 2 回は「ミニゲーム運動遊び」と、毎回テーマを変えて実技講習、理論講習を行っています。受講者からは、「運動遊びを実体験するだけでなく、運動遊びを取り入れるタイミングや子どもたちの反応を大切にした関わり方など、日常の保育にすぐに活かせる内容で参加してよかった。」等、好評を得ています。第 3 回は「用具を使った運動遊び」の予定ですが、定員を上回る受講希望者があり、申込はすで終了しています。

来年度も開催予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。

『宝鬼』
鬼ゾーンを抜けると宝島上陸
（チーム戦＋攻守混合型）

『じゃんけんサッカー』
ドリブルしながら敵を突破！

「架け橋期のコーディネーター派遣」 事業　～ご活用ください～

①園内研修・校内研修のサポート、市町村・地域協議会などの研修会・研究会での助言

交流・連携の課題や研修・研究テーマについて、一緒に考えたりアドバイスしたりします。

②相互参観（保育参観・小学校 1 年生の教育活動参観）とアドバイス

幼保小の教職員が互いに参観し合い、架け橋期の保育・教育や交流・連携について一緒に考えたりアドバイスしたりします。

③観点に基づいた保育参観とアドバイス

実際の保育の様子を参観し、テーマに沿ってアドバイスします。